

2025年9月30日

**8月の鉱工業生産は、電気・情報通信機械工業や金属製品工業などが低下したこと
から、全体として前月比マイナス1.2%と、2か月連続の低下。基調判断は、「一進一退」
に据え置き。**

公表概要 鉱工業指数

- 8月の生産は2か月連続の前月比低下
- 全15業種のうち12業種が低下
- 出荷は3か月ぶりの上昇
- 在庫は2か月ぶりの低下
- 在庫率は3か月連続の上昇
- 8月の生産の基調判断は、「一進一退」に据え置き

8月の生産は2か月連続の前月比低下

2025年8月の鉱工業生産は、季節調整済指数100.9、前月比マイナス1.2%と低下となりました。

これまでの生産の動向については、2025年2月は生産用機械工業や電子部品・デバイス工業などが上昇したことから、全体として上昇、3月も化学工業（除．無機・有機化学工業）や生産用機械工業などが上昇したことから、全体として上昇しました。その後、4月は生産用機械工業や食料品・たばこ工業などが低下したことから、全体として低下、5月も電子部品・デバイス工業や輸送機械工業（除．自動車工業）などが低下したことから全体として低下しました。6月は電子部品・デバイス工業や輸送機械工業（除．自動車工業）などが上昇したことから全体として上昇しましたが、7月は自動車工業や生産用機械工業などが低下したことから全体として低下、8月も電気・情報通信機械工業や金属製品工業などが低下したことから、全体として、2か月連続の低下となりました。

鉱工業生産指数の動向と先行き

・2025年8月の鉱工業生産指数は、100.9(前月比-1.2%)と2か月連続の低下。



3

全15業種のうち12業種が低下

8月の鉱工業生産を業種別にみると、全15業種のうち12業種が前月比低下、3業種が同上昇という結果でした。

電気・情報通信機械工業や金属製品工業などが低下したことから、全体として低下しました。

2025年8月の鉱工業生産指数を大きく動かした品目(業種別)

・2025年8月の鉱工業生産指数は、100.9(前月比-1.2%)と2か月連続の低下。

		業種・品目名	前月比	寄与度
【低下方向に寄与】 鉱工業生産を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい 2品目	1位の業種	電気・情報通信機械工業	-5.7%	-0.48pt
	品目	ノート型パソコン	-30.1%	-0.13pt
		外部記憶装置	-35.1%	-0.06pt
	2位の業種	金属製品工業	-7.8%	-0.33pt
	品目	アルミニウム製建具	-13.4%	-0.06pt
		鉄骨・軽鋼鉄骨	-12.7%	-0.04pt
【上昇方向に寄与】 鉱工業生産を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	3位の業種	無機・有機化学工業	-5.2%	-0.22pt
	品目	フェノール	-48.3%	-0.07pt
		ポリプロピレン	-16.1%	-0.05pt
	1位の業種	輸送機械工業(除:自動車工業)	20.0%	0.51pt
	品目	航空機用発動機部品	46.4%	0.46pt
	2位の業種	自動車工業	2.5%	0.31pt
	品目	普通乗用車	6.5%	0.32pt
		軽乗用車	18.5%	0.11pt
	3位の業種	電子部品・デバイス工業	0.4%	0.02pt
	品目	モス型IC(メモリ)	32.8%	0.16pt
		固定コンデンサ	4.3%	0.03pt

※ 密接な関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

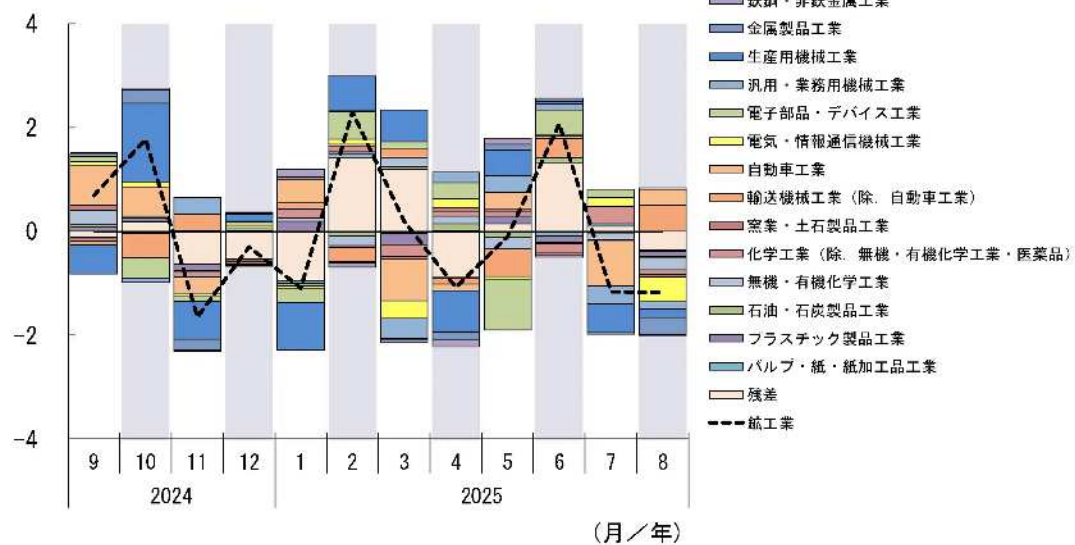
季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

4

鉱工業生産前月比 業種別の影響度合い

・2025年8月の生産指数は、輸送機械工業（除、自動車工業）などが上昇したものの、電気・情報通信機械工業などが低下したため、前月比-1.2%と低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



(注)「残差」は、鉱工業生産全体の変動から主要14業種の影響度を差し引いたものである。

6

低下寄与度の最も大きかった電気・情報通信機械工業では、ノート型パソコン、外部記憶装置等が主な低下要因となっています。次に低下寄与度が大きかった金属製品工業では、アルミニウム製建具、鉄骨・軽量鉄骨等が、その次に低下寄与度が大きかった無機・有機化学工業では、フェノール、ポリプロピレン等が主な低下要因となっています。

一方、上昇寄与度が最も大きかった輸送機械工業（除、自動車工業）では、航空機用発動機部品等が主な上昇要因となっているほか、次に上昇寄与度が大きかった自動車工業では、普通乗用車、軽乗用車等が、その次に上昇寄与度が大きかった電子部品・デバイス工業では、モス型IC（メモリ）、固定コンデンサ等が主な上昇要因となっています。

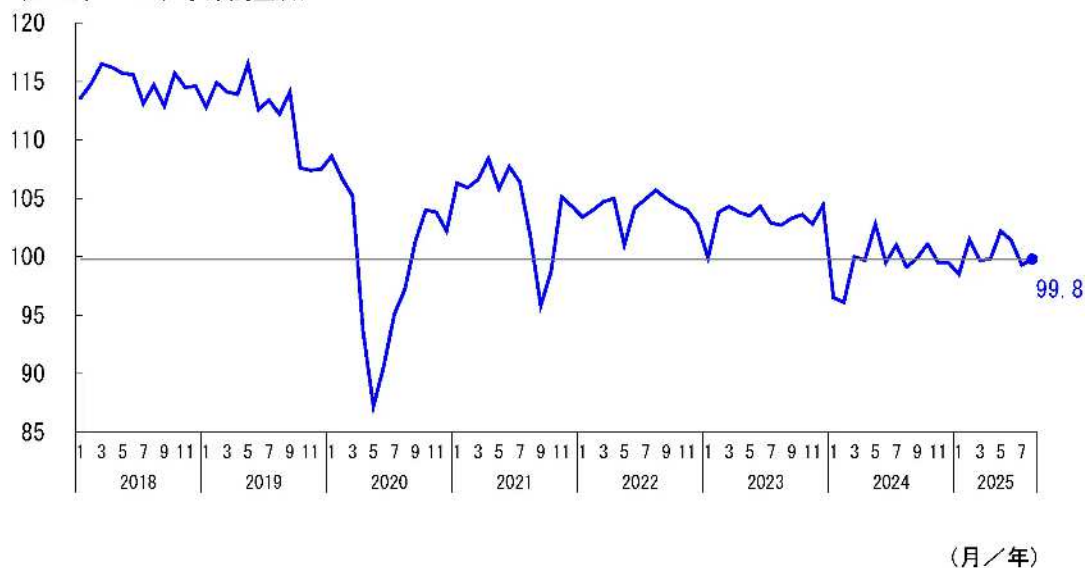
出荷は3か月ぶりの上昇

8月の鉱工業出荷は、季節調整済指数99.8、前月比0.5%と、3か月ぶりの上昇となりました。

鉱工業出荷指数の動向

・ 2025年8月の鉱工業出荷指数は、99.8(前月比0.5%)と3か月ぶりの上昇。

(2020年=100、季節調整済)



7

業種別にみると、全15業種のうち6業種が前月比上昇、9業種が同低下という結果でした。

8月は、自動車工業や輸送機械工業（除、自動車工業）などが上昇したことから、全体として上昇しました。

上昇寄与度の最も大きかった自動車工業では、普通乗用車、軽乗用車等が、次に上昇寄与度が大きかった輸送機械工業（除、自動車工業）では、航空機用発動機部品、ショベルトラック（除、建設用）等が、その次に上昇寄与度が大きかった鉄鋼・非鉄金属工業では、普通鋼鋼帯、特殊鋼冷間仕上鋼材等が主な上昇要因となっています。

一方、低下寄与度が最も大きかった電気・情報通信機械工業ではノート型パソコン、デスクトップ型パソコン等が、次に低下寄与度が大きかった金属製品工業では、アルミニウム製建具、ばね等が、その次に低下寄与度が大きかった汎用・業務用機械工業では、複写機、カメラ用交換レンズ等が主な低下要因となっています。

財の需要先の用途別分類である財別出荷指数をみると、生産財が航空機用発動機部品、普通鋼鋼帯等の出荷増により、前月比0.7%と上昇、耐久消費財が、普通乗用車、軽乗用車等の出荷増により、同3.6%と上昇となりました。一方、非耐久消費財がガソリン、頭髮用化粧品等の出荷減により、同マイナス1.7%と低下、建設財がアルミニウム製建具、鉄骨・軽量鉄骨等の出荷減により、同マイナス3.3%と低下、資本財（除、輸送機械）がノート型パソコン、複写機等の出荷減により同マイナス0.5%と低下となりました。

2025年8月の鉱工業出荷指数を大きく動かした品目（業種別）

・2025年8月の鉱工業出荷指数は、99.8（前月比0.5%）と3か月ぶりの上昇。

		業種・品目名	前月比	寄与度
【上昇方向に寄与】 鉱工業出荷を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	1位の業種	自動車工業	4.5%	0.71%pt
	品目	普通乗用車	5.6%	0.37%pt
		軽乗用車	23.7%	0.19%pt
	2位の業種	輸送機械工業（除、自動車工業）	26.8%	0.57%pt
	品目	航空機用発動機部品	46.9%	0.25%pt
		ショベルトラック（除、建設用）	35.2%	0.03%pt
	3位の業種	鉄鋼・非鉄金属工業	2.9%	0.24%pt
品目	普通鋼鋼帯	11.3%	0.08%pt	
	特殊鋼冷間仕上鋼材	13.2%	0.05%pt	
【低下方向に寄与】 鉱工業出荷を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい 2品目	1位の業種	電気・情報通信機械工業	-8.7%	-0.70%pt
	品目	ノート型パソコン	-26.9%	-0.17%pt
		デスクトップ型パソコン	-20.3%	-0.06%pt
	2位の業種	金属製品工業	-7.1%	-0.28%pt
	品目	アルミニウム製建具	-11.6%	-0.06%pt
		ばね	-8.4%	-0.05%pt
	3位の業種	汎用・業務用機械工業	-2.6%	-0.17%pt
	品目	複写機	-37.2%	-0.11%pt
		カメラ用交換レンズ	-20.9%	-0.06%pt

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

8

2025年8月の鉱工業出荷指数を大きく動かした品目（財別）

	解説	品目名	前月比	寄与度
生産財	原材料として投入される製品	生産財	0.7%	0.35%pt
		航空機用発動機部品	46.9%	0.25%pt
		普通鋼鋼帯	11.3%	0.08%pt
耐久消費財	テレビや電気冷蔵庫など家計で購入される製品	耐久消費財	3.6%	0.33%pt
		普通乗用車	5.6%	0.26%pt
		軽乗用車	23.7%	0.19%pt
資本財（除、輸送機械）	クレーンや金属工作機械など設備投資に向けられる製品	資本財（除、輸送機械）	-0.5%	-0.06%pt
		ノート型パソコン	-26.9%	-0.12%pt
		複写機	-37.2%	-0.11%pt
建設財	鉄骨やセメントなど建設投資に向けられる製品	建設財	-3.3%	-0.18%pt
		アルミニウム製建具	-11.6%	-0.06%pt
		鉄骨・軽量鉄骨	-12.7%	-0.04%pt
非耐久消費財	食料品や衣料品など家計で購入される製品	非耐久消費財	-1.7%	-0.32%pt
		ガソリン	-5.3%	-0.07%pt
		頭髮用化粧品	-11.0%	-0.03%pt

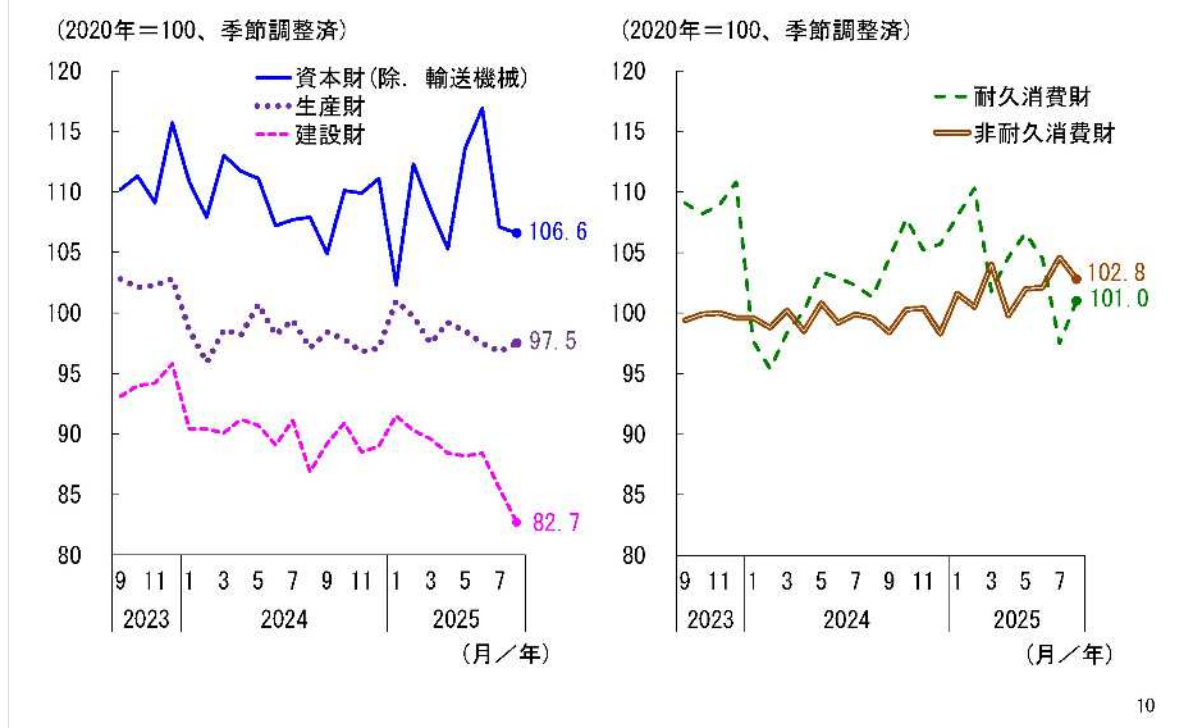
※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

9

財別出荷指数の動向



在庫は2か月ぶりの低下

8月の鉱工業在庫は、季節調整済指数99.1、前月比マイナス1.0%と、2か月ぶりの低下となりました。

業種別にみると、全15業種のうち、7業種が前月比低下、6業種が同上昇、2業種が同横ばいとなりました。

低下寄与度の最も大きかった自動車工業では、普通トラック、二輪自動車（125ml超）等が主な低下要因となっています。一方、上昇寄与度が最も大きかった電気・情報通信機械工業では、リチウムイオン蓄電池、デジタルカメラ等が主な上昇要因となっています。

鉱工業在庫指数の動向

・2025年8月の鉱工業在庫指数は、99.1(前月比-1.0%)と2か月ぶりの低下。

(2020年=100、季節調整済)



11

2025年8月の鉱工業在庫指数を大きく動かした品目(業種別)

・2025年8月の鉱工業在庫指数は、99.1(前月比-1.0%)と2か月ぶりの低下。

	業種・品目名		前月比	寄与度
【低下方向に寄与】 鉱工業在庫を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい 2品目	1位の業種	自動車工業	-8.8%	-0.63%pt
	品目	普通トラック	-12.8%	-0.17%pt
		二輪自動車（125ml超）	-25.5%	-0.12%pt
	2位の業種	鉄鋼・非鉄金属工業	-1.7%	-0.26%pt
	品目	特殊鋼熱間圧延鋼材	-9.9%	-0.12%pt
		普通鋼鋼帯	-10.7%	-0.10%pt
【上昇方向に寄与】 鉱工業在庫を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	3位の業種	生産用機械工業	-0.9%	-0.07%pt
	品目	ショベル系掘削機械	-5.2%	-0.10%pt
		電動工具	-4.0%	-0.02%pt
	1位の業種	電気・情報通信機械工業	5.8%	0.45%pt
	品目	リチウムイオン蓄電池	25.9%	0.32%pt
		デジタルカメラ	17.5%	0.06%pt
2位の業種	石油・石炭製品工業	3.8%	0.14%pt	
品目	ガソリン	12.5%	0.10%pt	
	軽油	10.9%	0.04%pt	
3位の業種	パルプ・紙・紙加工品工業	3.1%	0.08%pt	
品目	段ボール原紙	7.4%	0.04%pt	
	情報用紙	8.2%	0.02%pt	

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

12

在庫率は3か月連続の上昇

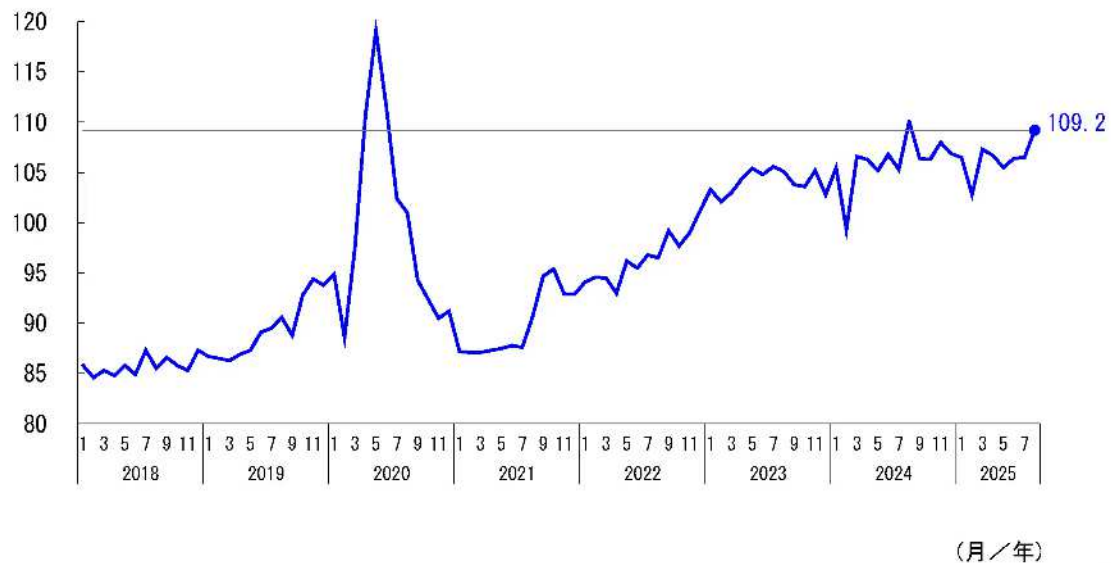
8月の鉱工業在庫率は、季節調整済指数109.2、前月比2.5%と、3か月連続の上昇となりました。

業種別にみると、全15業種のうち、11業種が上昇、4業種が低下となりました。

鋳工業在庫率指数の動向

・ 2025年8月の鋳工業在庫率指数は、109.2(前月比2.5%)と3か月連続の上昇。

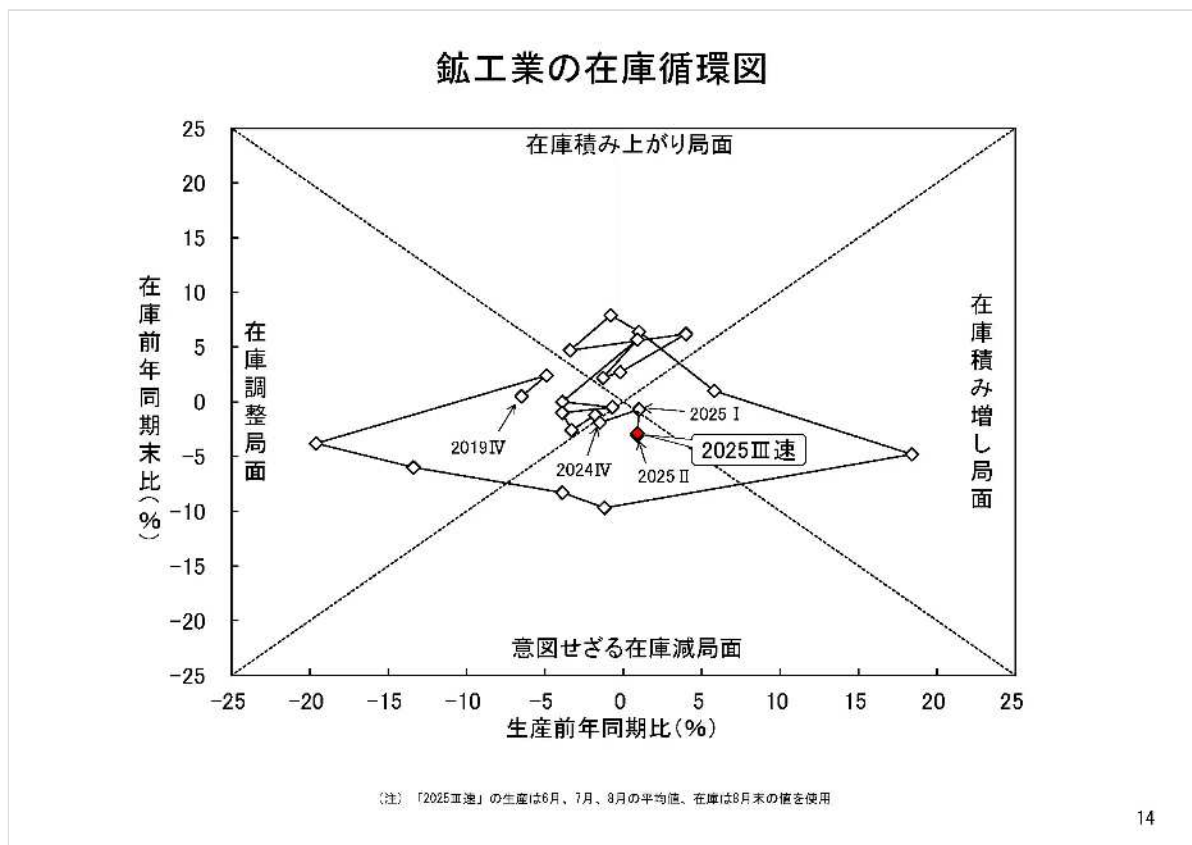
(2020年=100、季節調整済)



13

在庫循環図をみると、2021年第3四半期までは、「在庫積み増し局面」にあり、同年第4四半期から2023年第2四半期までの期間は、「在庫積み上がり局面」に位置していましたが、2023年第3四半期には、「在庫調整局面」に達し、2024年第4四半期には、「在庫調整局面」を抜け出て「意図せざる在庫減局面」に入り、その後2025年第1四半期には「在庫積み増し局面」に入りましたが、2025年第2四半期には再び「意図せざる在庫減局面」に戻り、2025年第3四半期（速）においても「意図せざる在庫減局面」に位置しています。

これまで、一部の業種において、積極的に在庫の削減に取り組まれてきたと考えられ、その効果が顕在化されてきた可能性があります、今後の動向に注視していく必要があります。



14

8月の生産の基調判断は、「一進一退」に据え置き

2025年8月の鉱工業生産は、前月比マイナス1.2%と低下しました。

これまでの生産は、2025年2月は生産用機械工業や電子部品・デバイス工業などが上昇したことから上昇、3月も化学工業（除．無機・有機化学工業）や生産用機械工業などが上昇したことから上昇しました。その後、4月は生産用機械工業や食料品・たばこ工業などが低下したことから低下、5月も電子部品・デバイス工業や輸送機械工業（除．自動車工業）などが低下したことから低下となりました。6月は電子部品・デバイス工業や輸送機械工業（除．自動車工業）などが上昇したことから上昇しましたが、7月は自動車工業や生産用機械工業などが低下したことから低下、8月も電気・情報通信機械工業や金属製品工業などが低下したことから、全体として2か月連続の低下となりました。

こうした中、先行きに関しては、企業の生産計画では、9月、10月ともに上昇を見込んでおり、企業の生産計画は、しばしば実績から上振れする傾向があることから、こうした影響も考慮すれば、一進一退の傾向は継続するものと見込まれます。

こうした状況を踏まえ、鉱工業生産の8月の基調判断については、「一進一退」に据え置きます。

なお、今後は、世界経済の動向などについて、注視してまいります。

結果概要のページ

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html>

参考図表集

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/reference/slide/result-iip-sanko-202508s.html>

マンガ「ビジネス環境分析にも使える！鉱工業指数(IIP)」

https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/slide/20170329iip_manga2017.html

お問合せ先

経済産業省 大臣官房 調査統計グループ 経済解析室

電話: 03-3501-1511 (代表) (内線2853)、03-3501-1644 (直通)

E-MAIL: bzl-qqcebc■meti.go.jp (■を@に置き換えてください)